

強度行動障害のある方の支援者に対する研修事業

予算額 5,358千円（26年度）

1 事業の目的・概要

強度行動障害※のある方への支援を適切に行うために、強度行動障害に関する専門的知識を有する人材を確保するとともに、施設支援員に対して、強度行動障害についての理解を深め、また、専門性を高めるための研修等を実施することが必要。

このため、強度行動障害のある方の地域移行の推進・受入先の整備を図るためにも、民間施設で支援に携わる職員を対象とした体系的な研修を実施。

※強度行動障害

自傷や他傷、激しいこだわりや器物破損、睡眠の大きな乱れ、拒食、異食等の食事問題や排泄面の問題等極めて特異な行動を頻繁に示し、生命維持にも危険を及ぼすような行動上の問題を指します。

2 事業内容

(1) 受講者

県内の民間障害者支援施設（入所施設）の支援員16名（うち養育園から1名、更生園から1名）

（16箇所の障害保健福祉圏域ごとに1名を想定。⇒各圏域における中核的な人材の養成を目指す。）

養育園から開始

（受講者以外の職員も参加）

(2) 研修内容等

受講者は、座学を年間20日間受講し、別途、勤務先施設において専門性の高い講師による実地指導を年間8日間受講。

《研修の主な内容（予定）》

- ① 基礎研修（行動障害に関する基本的な知識の講義）
- ② 臨床実習（支援現場での巡回指導、ミーティング）
- ③ 事例検討
 - ・事例検討による特性の理解
 - ・仮説と支援立案のトレーニング
 - ・データミーティング、レポートの作成
- ④ 他県の先行事例についての講習
- ⑤ 公開発表会（研修を終えた受講者の意見交換会）

《研修修了者の役割》

研修修了者は、習得した知識や支援のノウハウを、勤務先施設や各圏域に周知する。

《期待される効果》

県内の入所施設における強度行動障害のある方への支援のレベルが向上するとともに、支援のすそ野が広がる。

3 実施方法

強度行動障害のある方への支援のノウハウや実績を有する団体（（福）菜の花会）に委託して実施。